

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 09

学校名・団体名	仙台市立郡山中学校
HPアドレス	http://www.sendai-c.ed.jp/~koriyama/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学校と地域が協働する防災教育の実践（Ⅱ）
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>津波被災地を視察して復興を支援することを通じて、大震災とその復興の状況を知り、教訓と生き抜く力の糧を学び、大震災の風化を防ぎ継承する。さらに、地域の防災力向上と安全・安心な地域づくりは、学校と地域の共通する目標であり、学校と地域が協働する防災教育を実践することにより、共通目標の達成度を確実に高める。その際、学校が積極的に地域との協働を図り支援し、地域を巻き込む防災教育に取り組むことにより、学校と地域が協働できる体制づくりを構築する。その実践の要として、中学生が主導する住民参加型の地域防災訓練を中学生が実行する。</p> <p>これらの被災地視察・支援や防災教育の実践により、防災・減災の知識とスキル、行動を習得する中学生が毎年誕生して卒業することから、地域防災を担う人材育成が継続的に生まれ、地域防災力の向上と安全・安心な地域づくりに資する可能性が確か高められる。</p>	

1、活動時期とねらい・内容

平成29年度は、以下の表に示す実践のねらいと実践内容、実践時期で取り組んだ。

実践のねらい	実践内容	実践時期
① 震災と教訓を学ぶ ② 復興を知り、支援する	○全町内会と連携して全校生徒が学区の清掃活動を小学生や住民、保護者と共に行う。 ○1年生約200人が津波被災農家の講演を視聴 ○1年生が仙台市若林区の津波被災地を視察し、被災農家から大震災の講話を聞き、綿花畑等の除草を手作業で支援 ○2年生が仙台市若林区の津波被災地を視察し、被災農家から大震災の講話を聞き、その後400年前の震災を題材とする復興ミュージカルを視聴する。	平成29年 8月27日(日) 9月6日 9月12日 平成30年 1月31日
③ 防災・減災の知識、スキル、行動を習得する	○本校学区内の小学校と市民センターが行う防災訓練を、中学生が参加支援 ○中学生が主導する地域防災訓練と講演を開催(中学生が住民参加型の防災訓練を実行)	平成29年 10月14日 11月18日
④ 学習成果を発信する	○ユネスコスクール東北大会で、生徒会が本校の防災教育の実践成果をプレゼン発表 ○生徒会が主催する防災教育シンポジウムにて生徒会が防災学習成果を地域住民等に発表 ○ボランティア・スピリット賞のブロック大会にて生徒会が防災学習成果等を実践発表など	11月10日 11月18日 11月19日
⑤ 教育実践を評価する 自己・外部・第三者評価	○アンケート調査等の分析による自己評価 ○防災教育チャレンジプランにて実践発表し、専門家から第三者評価 ○学校評価委員会で、外部委員による評価 ○各種評価に基づき、次年度の企画・計画等	平成30年1月9日 ～ 2月17日 2月21日 3月中旬

2、1・2年生による津波被災地の視察・支援・交流活動について

(1) 平成29年度「津波被災農家に弟子入り体験」

1年生・約200人が、仙台市沿岸部の津波被災地で農業を営む方々を支援するため、9月12日に被災地を視察し、その後綿花畑等の除草作業を行っている。大震災前は広大な水田地帯であったものの、津波の塩害が残る中、稲作に変わり手作業で綿花を栽培している。生徒たちは小雨が降るにも関わらず、懸命に除草作業に取り組んでいた。



(2) 平成29年度・津波被災地の視察と復興ミュージカルの視聴

2年生・約200人が、仙台市沿岸部の津波被災地を1月31日に訪問し、震災遺構として平成29年4月に開設された津波で被災した小学校とその地域を視察した。その後、約400年前に仙台で大震災が起きた当時の有志たちを画いた復興ミュージカルを鑑賞している。震災遺構の小学校は被災当時そのまま保存されており、津波の猛威とその恐ろしさを生徒達は実感していた。ミュージカルでは大震災から復興を遂げるために尽力した有志の姿から、何事も諦めず、未来に向けて突き進む意欲と夢や希望を学び取ることができ、生徒達は感動の渦に巻き込まれていた。



以上、平成28・29年度に実施している1年生の活動について、アンケート調査を実施した結果を、表に示した。各調査内容について選択肢“大いに”と“まあまあ”を合わせると概ね8割を超えている。

調査内容		1学年	大いに	まあまあ
1	大震災のマスコミ報道を受けて、大変なことが起きていることを感じる。	H28	85.6	13.1
		H29	94.3	5.7
2	被災地を実際に視察・支援して、被災地の復旧・復興に、自分の力を活かしたいと思う。	H28	39.9	47.5
		H29	55.1	38.1
3	被災地を実際に視察・支援して、被災地のために、何ができるか考えたいと思う。	H28	41.9	40.6
		H29	54.0	35.8

4	今回の活動を通じて、人が人を助けることは、大切なことだと感じた。	H28	79.9	18.9
		H29	83.5	12.5
5	これからの自分は、自分の夢や希望を持ち続け、頑張りたいと思う。	H28	79.4	15.6
		H29	78.4	18.8

生徒は被災地とその人々から大きな感銘を受け、それを糧にして生き抜く力が育まれていることが分かる。

3、中学生が主導する地域防災訓練と防災教育

本実践は平成27年度から郡山中学校区の小・中学校と町内会、消防団、PTA等が協働して地域合同防災訓練を行っている。中学生は6つの班活動を主導して訓練を行い、町内会や消防団等の地域組織の援助を受け地域を巻き込む取組展開を図っている。

○実施日 平成27～29年11月の第三土曜日

○実施形態 授業日として全校生徒が参加

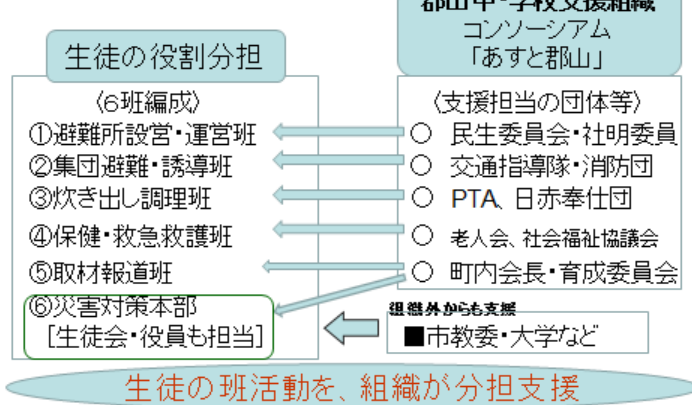
本訓練では、3年生全員と2年生の一部生徒が右図に示している6班を分担して実施する。各班には、コンソーシアム「あすと郡山」の地域組織が援助しており、このことにより地域を巻き込む形で中学生が主導する地域防災訓練を展開している。また、訓練の避難者役は、1年生全員と2年生の一部生徒そして地域住民、保護者である。

○アンケート調査の結果 どの項目も良好な変容を示しており、本実践の成果や効果が高いことが分かる。

本訓練は平成27年度から実践しており、27年度の入学生が29年度までの3年間の変容を右グラフに示している。選択肢“大いに”の割合では、29年度の中学3年生が8割を超え、本訓練などの防災教育の重要性を認知している。また、中学生自らの地域貢献度も“大いに”が75.9%に高まり、効果が見られる。

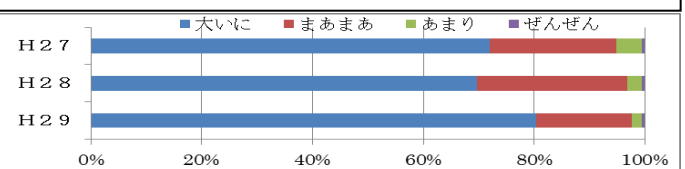
中学生が主導する地域防災訓練

活動班と援助組織



生徒の班活動を、組織が分担支援

NO9 地域防災訓練などの防災教育は、大切だと感じる



4、まとめ

本教育実践では以下に示す成果や効果が得られており、右図に成果等の流れを図示する。

①防災・減災の知識とスキル、そして行動と防災対応能力を育む。

→ 地域の防災意識と防災力を向上させ、安全・安心な地域づくりを担う人材を育成する。

②“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へ、心と姿勢の変容を図る。→ 生徒自らが実行役として防災・減災に取り組み、豊かな心と人間性を培う。

③大震災がもたらした現実を知り、教訓を学び継承する。

→ 主体的に復興支援に取り組み、持続可能な社会づくりを担う人材を育む。

以上、本校の防災教育では保護者や地域を組織的に巻き込む仕組みを構築するため、学校・地域支援組織の設立を進めている。図示したように、中学生が主導する地域防災訓練をメインプランに、多様な体験的活動に基づく防災教育の実践を創出している。これらの実践により、生徒は防災や減災の知識・スキル・行動と防災対応能力を習得する。毎年、習得者が地域に増員され、確実に住民の防災意識と地域防災力は高まる。また、実践を通じて生徒は“支えられる人”から“支える人”へ心と姿勢を変容し、豊かな人間性を育むことができる。そして、実践が継続することで、地域の多様な年代の人々と関わり、繋がり、延いては絆づくりに波及し、心が通い合う安全・安心な地域づくりに寄与し、持続可能な地域コミュニティの形成が期待できる。

本校の実践は汎用性、継続性、有効性、発展性において、防災教育の実践として評価できるものと考えます。しかし、今後、実践を継続しながら、さらに分析と検証を重ねて改善と改良を行っていく。そして、現在から未来に向け、本実践による防災教育を継続することは、地域防災力が偉大なる力(共助という、地域の人と人が結びつく強靱な絆を司るパワー)に進化するものと確信している。

